

平成26年度 三田松聖高等学校・学校評価シート

学校 教育 目標	<p><基本方針></p> <p>校訓「不撓不屈，和敬協調，自律自学」の信念のもと，心身を錬磨し，優れた英知と豊かな情操を備えた，清く正しく強い，社会貢献のできる青少年を育成する。</p> <p>1. 知・徳・体の調和のとれた人格形成と育成を図り，生徒が生き生き・伸び伸びと活動する活発な学校づくりを推進する。</p> <p>2. 個に応じた教育活動を展開し，基礎・基本を確実に定着させ，生徒自ら主体的に判断し，行動できる資質や能力の向上を推進する。</p> <p>3. 家庭や地域との密接な連携を図ることにより，社会から信頼される学校，魅力ある学校づくりを推進する。</p>	重 点 目 標	<p><学校経営の重点></p> <p>「教育は人なり」である。生徒に「生きる力と学ぶ力」を身につけさせるため，熱意ある教育実践と真摯なる研修を積み重ねる教師集団づくりを図り，生徒との信頼関係を構築し，学校のさらなる発展を目指す。</p> <p>1. 生徒の多様な進路目標に応えるため，それぞれのコースの特徴をより伸張すると共に，組織的な教育計画を展開し，特色ある教育活動を推進する。</p> <p>2. 生涯にわたり，自らの目標に向かって主体的に学び続ける力をつけるために，教科指導はもとより学年・学級経営を充実し，生徒一人一人の能力と個性を伸ばす教育を推進する。</p> <p>3. 部活動や体験活動を通して，ふれあいを大切にし，互いを思いやり，自他の生命や人権を大切にする心の教育を充実させ，生徒の豊かな人間性や社会性を育む教育を推進する。</p> <p>4. 生徒の学びを支えるため，教員一人一人が教育者としての使命を認識し，専門家としての自覚を高め，日々の研究や研修を通して，幅広い視野と専門的な知識や指導力の向上に取り組む。</p>
----------------	--	------------------	--

達成度 (A(8.1~10.0) : よくできた / B(6.1~8.0) : どちらかというときできた / C(4.1~6.0) : どちらかというときできなかった / D(~4.0) : できなかった)

学 校 自 己 評 価

学 校 自 己 評 価						学校関係者評価	
領域	評価の観点	評価項目	No.	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校評価委員からの意見・要望・評価等
教育課程	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教科の基礎基本学習を徹底 自ら学ぶ主体的な学習指導 生徒の学習意欲を高める指導 進路達成に向けて応用力をつける指導 個に応じた丁寧な指導 	1 2 3 4 5	1 教科によっては徹底できた 2 自発的な学習は徹底できていない 3 意欲的に取り組む生徒も増えた 4 少しずつ応用力もついてきた 5 進路に応じた個別学習ができた	B (7.3)	①家庭学習の徹底 ②校内研究授業の有効活用 ③校外の授業研修会への参加 ④補習授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> 指導面では一貫性が必要だが，これに対する手立てが何かいるのではないか。 きめ細かな教科指導のためには，教科担当者間の十分な話し合いが必要ではないか。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導体制の充実 規律ある学校生活の確立 規範意識の向上 挨拶やマナーの向上 生徒との信頼関係の構築 	6 7 8 9 10	6 各係との連携は取れていた 7 規律違反もあるが良くなっている 8 少しずつ改善が見られる 9 全体的にずいぶん良くなっている 10 全体としては良くなっている	B (6.9)	①HR・学年での規律指導の徹底 ②登下校の列車内マナーの指導 ③校外での指導研修会への参加 ④学校・警察・保護司との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 女子高から男女共学となって保護者の学校への期待は大きくなっている。 保護者の期待に応えるためには，保護者への指導は欠かせない。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導体制の充実 キャリア教育の推進 進路意識の向上 主体的な進路選択能力の育成 	11 12 13 14	11 各係との連携は取れていた 12 進路ガイダンスは充実していた 13 各学年とも意識付けはできた 14 自主的な取り組みは不十分である	B (6.9)	①特別講座の内容と指導体制 ②進路希望を明確にさせる取り組み ③職業意識を明確化する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 一般社会でつまづかないような人間教育が学校での有効な教育活動と考える。
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化 部活動を通じた心の育成 ホームルーム活動を通じての心の育成 地域に奉仕する心の育成 	15 16 17 18	15 自主的な取り組みは不十分である 16 規範意識の向上・協調性が見られた 17 自主性・協調性が育ってきた 18 奉仕と感謝の気持ちが育ってきた	B (7.1)	①部活動と学業との両立 ②挨拶とマナー向上への取り組み ③自己の確立への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動が活性化し，技術面のみならず挨拶，ゴミ拾いなど日常活動も向上 対外試合等での貸切バス利用の負担増は，当然，保護者の負担増も止むを得ない。
学校運営	学年経営 学級経営 所属部役割	<ul style="list-style-type: none"> 学年経営体制の充実 学年経営計画の充実 学級経営体制の充実 学級経営計画の充実 自己の役割と実践的指導力の向上 	19 20 21 22 23	19 主任・副主任を中心に経営できた 20 概ね計画通りに実施できた 21 学級により運営状況に差があった 22 学級により計画通りにいかなかった 23 各個人として指導力の向上に努めた	B (7.0)	①年次計画の早期決定と実行 ②課題の共通認識と意思疎通 ③教師個人の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 自己採点を見る中で，個人的な悩みを持っている先生がいるので，何か手立てが必要 先生間で意思が通じ合えることは重要 先生方の頑張りが評価を上げているので，その点処遇改善は必要。
	校務分掌 学校教育目標の達成 保護者や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 機能的な組織編成の充実 諸課題について研修の充実 家庭や地域と連携した教育体制の充実 保護者アンケートの有効活用 	24 25 26 27	24 諸問題に速やかに取り組めた 25 教員内で様々な研修会に取り組んだ 26 保護者とのやりとりが不十分だった 27 授業アンケートの活用が不十分	B (7.0)	①適正人員の配置 ②適材適所の配置 ③公開授業の実施回数増を図る	<ul style="list-style-type: none"> 共学後11年になるが，良い方向で変化している。 学校は，いろいろな面で持続・向上に心がけて欲しい。